

ポプラ荘のおばあさんは、 天国のお父さんに 手紙を届けてくれると言いました。

天国の父への手紙に溢れる想いを静かに綴っていく少女と
おばあさんの心の触れ合いを描いた、心をいやす感動の物語。

大好きだった父を突然亡くした8才の千秋(本田望結)は、失意の母(大塚寧々)と共に、ポプラの木がある「ポプラ荘」に招かれるように辿り着く。

ある日、「ポプラ荘」の大家のおばあさん(中村玉緒)は、元気を取り戻せないままの千秋に不思議な話を持ちかける。

“私にはお役目がある。それは、天国にいる人たちに手紙を届けることさ”

その言葉を信じた千秋は、父への手紙に溢れる想いを静かに綴っていく。

物語は17年後の現在に。看護師になった千秋は婚約者の医師から突然の別れを切り出されていた。

父を突然亡くした時と同じように、心の危機に直面していた千秋に、母から電話が入る。

それは「ポプラ荘」のおばあさんが亡くなった報せ。まるで何か救いを求めるかのように千秋はおばあさんの遺体が待つ「ポプラ荘」へ向かう。

そこで千秋が知らされたことは……



湯本香樹実によるロングセラー小説『ポプラの秋』を、
主演本田望結・中村玉緒で待望の映画化。

原作は「夏の庭～The Friends」「岸辺の旅」などで知られる湯本香樹実。本作品『ポプラの秋』は、1997年に発表されて以来、アジアのみならず、アメリカ、ヨーロッパなど世界10ヶ国で翻訳・出版され、言葉や文化の壁を超えて愛され続けている小説。本作品が初主演作となる本田望結は、おばあさん役の中村玉緒とは65歳差の共演となる。千秋の母には大塚寧々。そのほか、村川絵梨、藤田朋子、宮川一朗太、山口いづみ、内藤剛志など実力派俳優陣が脇を固める。



飛騨高山の美しい風景が映画のもうひとつの主役になる。

撮影は、小京都と称される美しい飛騨高山で行われた。日本の観光地を格付けしたミシュラン・グリーンガイド・ジャパンで、最高の三ツ星をつけられたその古き良き街並みは、映画の中でも随所に映し出される。美しい山々から昇る陽や、はっとするほど鮮やかな赤い中橋、どこまでも続くように空に伸びたポプラの木や、猫がまどろむおばあさんの家の縁側。まさにこの映画のためにあったような、どこか懐かしい風景が心を和ませる。

監督は、「瀬戸内海賊物語」で少女たちの冒険を生き生きと描いた新鋭大森研一。撮影は、是枝監督の「幻の光」でベネチア国際映画祭オゼラ・ドゥオロ賞を受賞した重鎮中堀正夫。音楽は、ピアニストとしてだけではなく、作曲家、俳優とマルチな才能を発揮している清塚信也が手がけた。主題歌・持田香織の歌声は、よりいっそう映画の余韻を心に刻む。

第18回上海国際映画祭
パノラマ部門正式招待作品

ポプラの秋

2015年9月19日(土)より
シネスイッチ銀座ほか
全国順次拡大ロードショー